

# 災害発生時の避難等に援助が必要な方への取組み

障害や病気、加齢など様々な要因により、災害発生時の避難等に配慮が必要な方が地域にもたくさんおられます。

その対応として、災害発生時の避難等に特に支援を必要とする方（避難行動要支援者）の名簿作成は、災害対策基本法により市町村に義務付けられており、災害発生時に支援が受けやすくなる仕組みづくりに活用されます。

該当すると思われる方には通知をお送りしていますので、避難行動要支援者名簿を支援者に提出することへの同意にご協力をお願いします。

## 「避難行動要支援者」とは??

白浜町では、災害発生時の避難等に特に支援を必要とし、以下に該当する在宅生活者を「避難行動要支援者」として位置づけ、対象であると町が把握できている方に対して、避難行動要支援者名簿を支援者に提出することへの同意確認を行っています。

- 介護保険の要介護3・4・5の認定を受けている人
- 身体障害者手帳の1・2級の交付を受けている人
- 療育手帳（知的障害）A1・A2の交付を受けている人
- 精神障害者保健福祉手帳1級の交付を受けている人
- 難病患者（特定疾患医療受給者・小児慢性特定疾患医療受給者）
- 65歳以上の者のみの世帯の構成のうち、特に支援を必要とする者
- 町長が必要と認める者

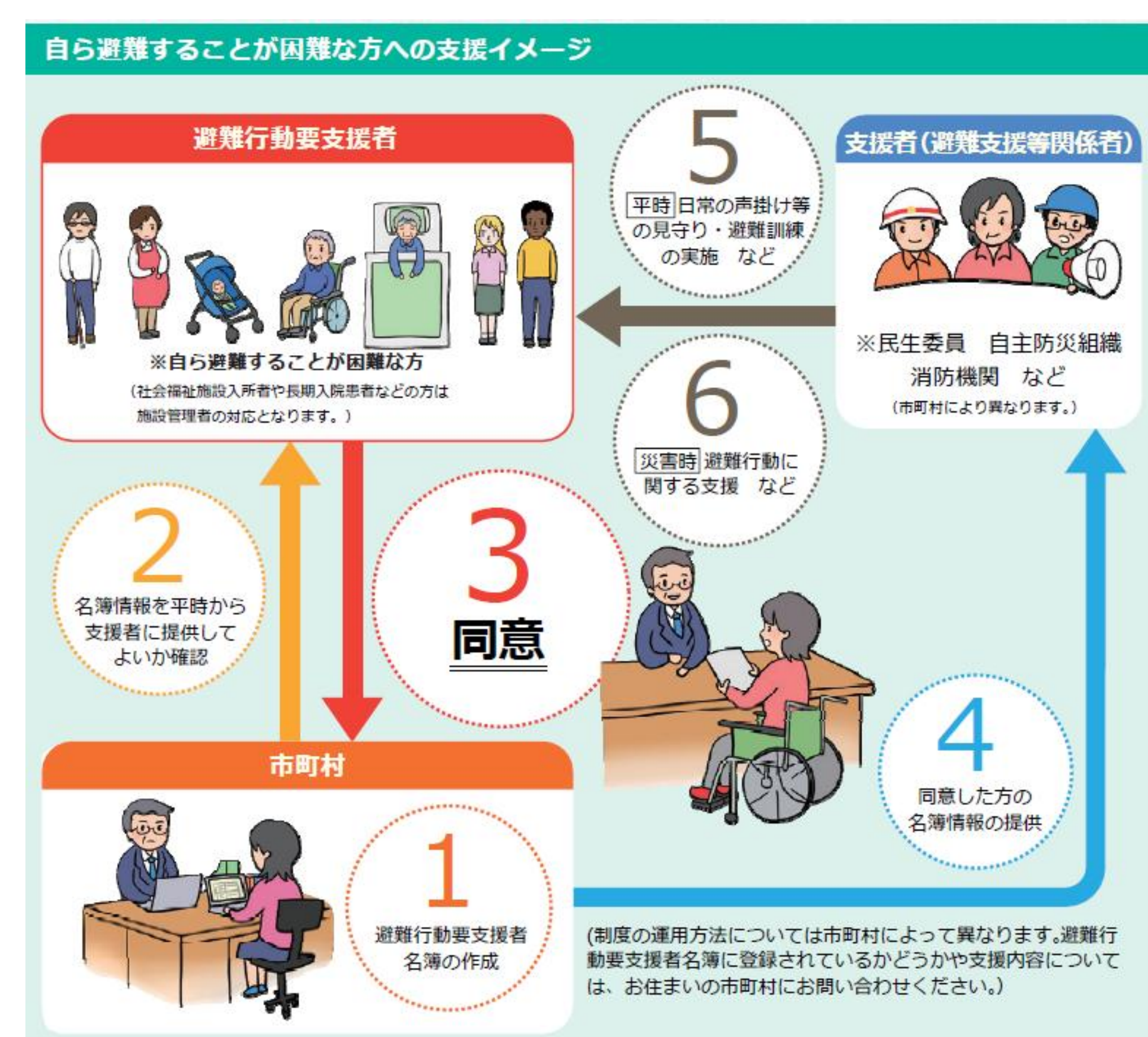


## 「避難行動要支援者名簿」とは??

同意いただいた方の名簿は、平常時から避難支援関係者（消防や警察などの関係行政機関、社会福祉協議会、自治会、消防団、自主防災組織、民生委員・児童委員、障害福祉事務所、高齢福祉事務所、地域支援者）に提供されます。

名簿が提供されることにより、平常時の日常生活において声かけや見守り、避難支援関係者間の情報共有や支援方法の検討などに活用されます。

災害発生時には、避難支援関係者からの避難支援を受ける可能性が高くなります。（※避難支援が必ずされることを保証されるものではなく、避難支援関係者は法的な責任や義務を負うものではありません。）



## 「要配慮者」とは??

避難行動要支援者の対象とはなっていなくても、災害発生時に障害や病気などにより配慮や支援が必要な方を「要配慮者」と言います。避難所生活において配慮や支援が必要であっても、外見では配慮や支援が必要なのか分からない場合やどのような配慮や支援が必要か判断が難しい場合が多く起こりえます。

白浜町内の障害児・者を支援する事業所が一同に集まる、白浜町障害福祉サービス事業所連絡会では、民生委員や連絡会委員を対象に障がいのある人の避難を想定した避難訓練や、障がいのある人とその支援者を対象とした避難訓練を実施し、災害発生に備えた対応等について検討を行っています。



## 「精神障害（発達障害）」とは？

精神障害とは、何らかの原因により、脳の働きが変化して、心理的な問題が起き、感情や行動の著しい偏りから社会生活に支障がある状態です。発達障害とは、脳機能の障害であって、低年齢において症状が現れる障害ですが、社会人になってから生活や仕事に支障が生じて障害に気づく場合もあります。

### 【主な特徴】

#### ○ うつ病（気分障害）

約15人に1人が一生のうちに発病すると言われていた特別な人がかかる病気ではなく、誰でもかかる可能性がある病気です。意欲の低下や疲れやすさ、不眠などの症状やもの見方・考え方が消極的になりがちです。

#### ○ 統合失調症

100人に1人くらいの割合でかかる、比較的一般的な病気です。こころや考えがまとまりづらくなり、周りの人には聞こえない声（悪口や命令）が聞こえる幻聴や、自分のことを監視されているのではないかなという被害的な妄想があったりします。本人は現実には起こっていることと感じているため、自覚しづらく周囲が気づいて受診や相談に至ることもあり、薬の服薬により、症状を緩和して日常生活を送っている人もいます。

#### ○ 広汎性発達障害（自閉症・アスペルガー症候群など）

こだわりが強く、突発的な出来事や予定の変更への対応が苦手、時間の感覚が分かりづらい、相手の話を十分に理解できず思い違いをする、自分の考えをうまくことばにできないなど、様々な症状が重複することが多いです。

#### ○ 注意欠陥多動性障害（ADHD）

興味のあることや自分の考えが優先してしまい周囲の状況を把握できずに行動したり、周囲からは無駄にみえる動きや行動を落ち着きなくしたりして、注意が散漫になりがちです。

## 災害発生時の困ること…

- ・災害により、普段と違う状況や環境となり、精神的に不安定になりやすい。
- ・その場の状況をみて行動できなかったり、相手の思いや気持ちに気づけずにトラブルにつながる。
- ・不安な気持ちから、何度も同じことを聞いてしまったり、突発的な行動をとってしまったりする。
- ・外見だけでは障害があると分かりにくく、理解されない場合があるので、必要な支援を受けづらい。
- ・人とのコミュニケーションが苦手なことが多く、避難所などで周囲に合わせて行動することが難しい。
- ・感覚が過敏なため、多くの人が気にならないような音や光、匂いなどに苦手さを感じてその場にそぐわない行動をとってしまう。



## わたしたちができること

- ・指示をするときは、内容を簡潔にして、穏やかな声で安心できるような声かけをしてください。
- ・避難時は、具体的に指示してください。可能であれば一緒に避難してください。
- ・不安が強い時は、静かな場所に移動するなどの落ち着ける状況を作ってください。
- ・予定などはメモ書きを渡してもらえると安心でき、お互いの行き違いも防ぐことができます。
- ・その人の性格や努力不足ではなく、脳の働きの病気や障害であることを知ってください。



## 「知的障害」とは??

生まれつきや幼少期の病気などにより、脳になんらかの障害を受けたために知的な発達が遅れ、他人とのコミュニケーションなどの社会生活に困難が生じる障害です。発達障害と知的障害の両方の障害がある場合も少なくありません。

### 【主な特徴】

- ・複雑な話や抽象的な概念の理解がしづらい。
- ・その場の状況を判断したり、見通しをもって考えることが苦手。
- ・学校の授業についていけず、読み書きや計算が十分にできない。
- ・困ったことが起きてても自分から助けを求めることができない。
- ・話の内容を理解できなかったり、自分の考えや気持ちをうまく表現できず、コミュニケーションを上手にとれない。
- ・話す内容が分かっているように見えても、十分に理解できていないままに返答したり、行動してしまう。



## 災害発生時困ること…

- ・災害の怖さや避難の必要性を想像しづらいことから危険性の予測ができない。
- ・変化に対する不安や抵抗、こだわりの強さから精神的に不安定になる。
- ・コミュニケーションの困難さから「助けて」と言葉で言えない、声をかけられてもオウム返しになってしまう。
- ・感覚が過敏なため、大きな音や子どもの声がするとその場にいることができなかったり、パニックになる。
- ・介助しようと急に触られると驚いてしまい、手を払いのけたり大声をあげたりしてしまう。
- ・痛みを感じづらく、高熱がでていたりケガをしていたりしても平気で過ごしてしまい、周囲も気づかない。
- ・避難所生活になじめない。



## わたしたちができること

- ・口頭で伝えるだけではなく、メモで渡すなどの配慮をする。
- ・何が苦手か確認し、場所を変える、耳栓をつけるなど刺激から離れるように配慮する。
- ・生まれつきの脳の障害であることを理解し、その人にあったサポートをする。
- ・場面に応じた行動や状況を具体的に伝え、無理強いしない。
- ・絵や図、ふりがなや数字などを示して具体的に表現する。
- ・本人が理解しやすいように短い言葉でゆっくり話す。
- ・「助けて」「困った」が言い出しやすい関係づくりを心がける。
- ・避難所などでは、パーティションやテントなどを活用して個別の空間を作る。
- ・コミュニケーション支援ツールを使ってみる。

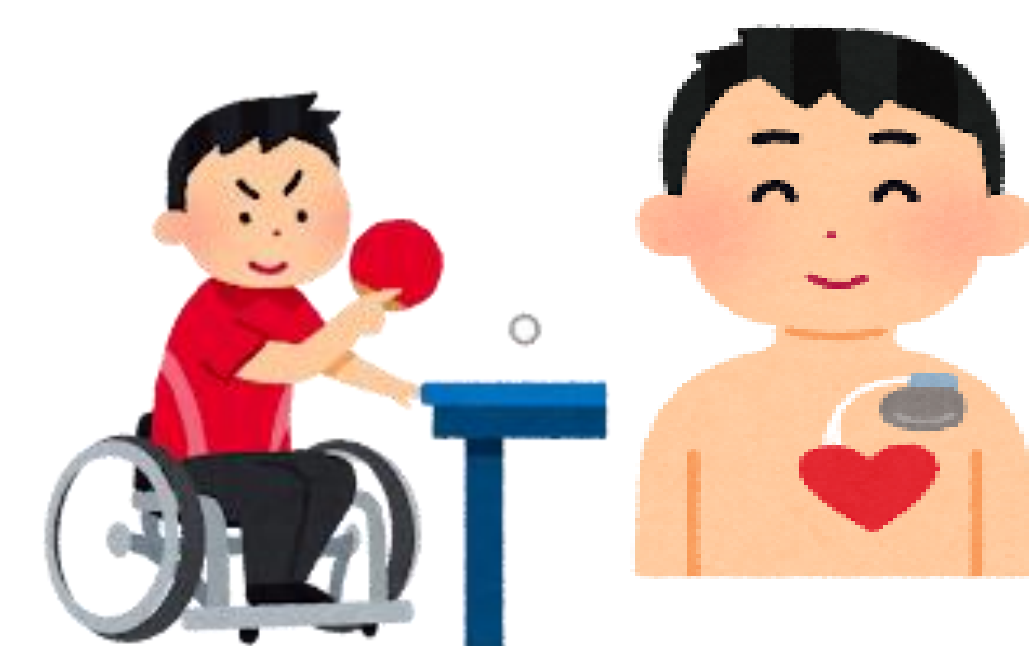


(言葉以外で意思疎通を図るための道具)  
 ■ タブレットで行き先の写真を示す  
 ■ タイムタイマーで設定した時間を示す  
 ■ カレンダーで予定を伝える

## 「身体障害」とは??

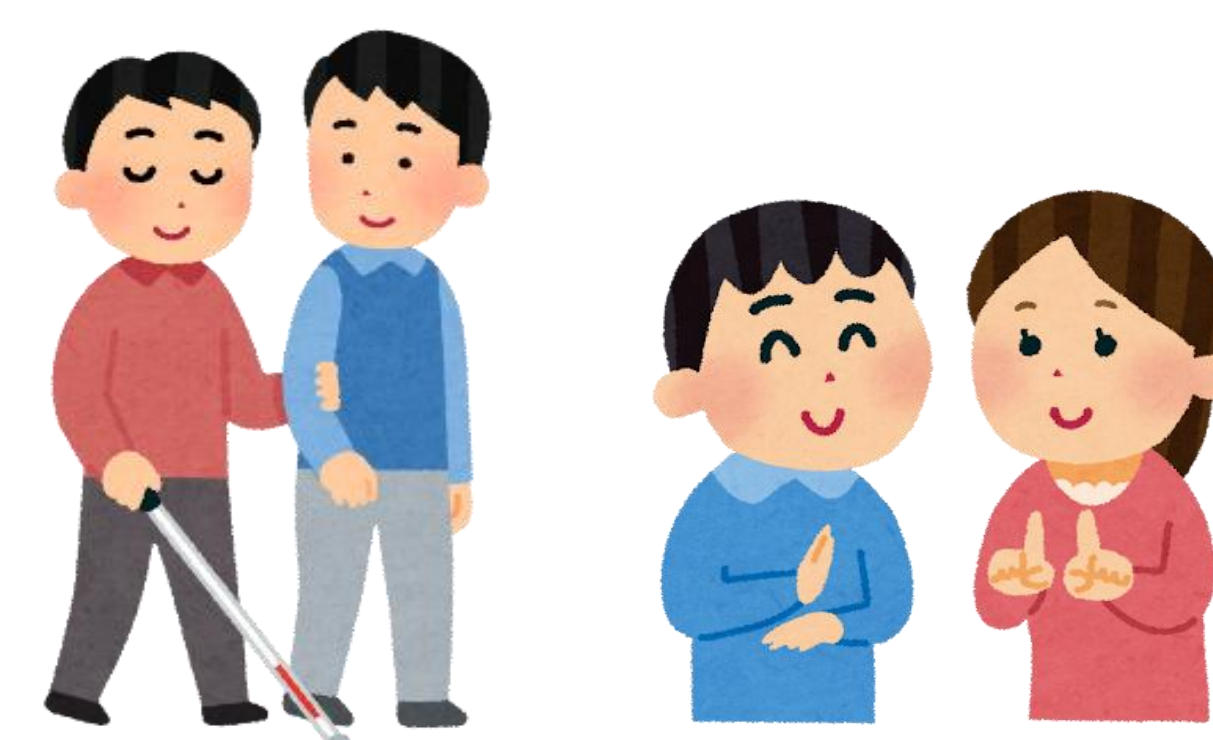
生まれつきや病気、交通事故などにより、身体に何らかの障害を受けたために、社会生活に困難が生じる障害です。車いすなどの補装具を使用したり、手術や治療を受けることで障害や介護負担を軽減できる場合があります。

## 災害発生時困ること…



- 肢体不自由…体を動かす機能に制限がある。体温調整がしづらい。
  - ・歩行や移動に車いすや杖、義足、装具を使用している。→階段や段差の移動が大変、床に座れない、立ち上がれない
  - ・食事やスマホの操作など手指が動かす動作に義手や足、口などを活用している。→物の持ち運びや代筆が必要
- 視覚障害…目が全く見えない、視野が狭い、暗いところでは見えない。
  - ・白杖を持っていたり、盲導犬を連れている。→歩道と車道の違いが分かりにくい、知らない場所で一人で移動できない
  - ・スマホなどの音声読み上げ機能を使用している。→複数人の会話はわかりづらい、遠くの人に声をかけられない
- 聴覚障害・言語障害…耳が全く聞こえない、聞こえにくい、発音が難しい
  - ・手話や指文字、筆談、読話などを用いてコミュニケーションしている。→会話の内容にすれ違いが起こりやすい
  - ・補聴器や人工内耳をつけている。→音声のみでは状況を把握できない
- 内部障害…心臓や呼吸器、腎臓、肝臓、ぼうこう・直腸、小腸、免疫機能障害などがあり、外見では分かりにくい。
  - ・運動や食事、トイレの使用などに制限がある。→非常食で対応できない、多目的トイレが必要
  - ・透析や服薬など治療を続けないと生命の維持が困難である。→感染症にかかりやすい、薬や治療が受けられない

## わたしたちができること



- ・「何かお困りですか？」などを声をかけたり筆談で伝えたりする。
- ・情報の提供は掲示板への掲示やアナウンスの両方を用いる。
- ・聴覚障害のある人には、ゆっくりはっきりと言葉を区切りながら簡潔に伝える。
- ・視覚や聴覚障害により周囲の状況を把握しづらいため、「あっち、こっち」ではなく具体的に表現して伝える。
- ・移動や避難生活で困ることを確認し、必要なスペースの確保やベッドや椅子、パーテーションなどの備品の準備を行う。
- ・医療的な治療や障害の状態により、避難所での設備では対応が難しい場合には、医療機関や行政、ケアマネジャーなどに対応を依頼する。

## 「ヘルプマーク」とは??

外見からはわかりづらい障害等があり、援助や配慮を必要としている方を対象にヘルプマークを交付しています。（例：義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、妊娠初期の方、精神疾患・知的障害をお持ちの方等）  
 手続きは、役場民生課福祉係、富田事務所、日置川事務所で受け付けています。（おひとり様1つまで）  
 カバンなどにヘルプマーク（右写真）を付けている方がお困りの様子だったり、避難所で見かけましたら「何かお困りごとはないですか？」などの声かけや座席や場所を譲るなどのご配慮をお願いします。

